

■リーダーの手引き

2019年「10日間の特別祈禱」によろこそ！ 2006年に「世界的な聖霊の注ぎを求める運動」がスタートして以来、10日間の特別祈禱を通じて、主は多くの奇跡を行ってこられました。聖霊は、リバイバル、回心、伝道への熱意の回復と、関係における癒しを与えてくださいました。まさしく、祈りはリバイバルが生まれる場なのです！

この手引きは、リーダーであるあなたを助けるために作られたものです。最初の部分は、2019年「10日間の特別祈禱」に関する内容を取り上げ、次の部分は、あなたやあなたの所属する祈りのグループを助けるための内容が含まれています。ただしこれらは、あくまでも参考程度に用いていただくものであることを覚えていただけたら幸いです。聖霊の導きに従って、遠慮なく内容を調整してください。

2019年1月9日から19日の「10日間の特別祈禱」の期間中、あなたのグループは、毎日直接顔を合わせるか、あるいは電話で約1時間の「特別祈禱」に参加する必要があります。

11日目の1月19日は安息日です。この日は、「特別祈禱」におけるわたしたちの祈りに応えてくださった神様に感謝をささげる日です。これらの提案が、あなたの所属する小グループや教会にとっての助けとなり、「10日間の特別祈禱」で力強い体験をしていただければ嬉しいです。

***あなたの教会が1月9日から19日に「10日間の特別祈禱」を持つことが出来ない事情があるとしたら、ぜひ別の日程で行うことをおすすめします**

■始めるに際し、2018年「10日間の特別祈禱」に参加した方々の証しをご一読ください。

サンドラ (アメリカ:メリーランド州)

「毎日の学びがまるでわたしのために書かれているようでした。わたしの信仰は今まで以上に強められています。祈るにつれて具体的な祈りは答えられています。あるものはわたしが祈る前に答えられます。同時にわたしは数え切れない、予想外で、どうしようもない試練に遭っていますが、神様は何とかわたしが乗り越えられるよう助けてくださっています。神様のすばらしさに圧倒されます。」

ヤン (インドネシア)

「10日間の特別祈禱はとても素敵な経験でした。わたしたち教会員は共に集まり、互いのために祈りました。この聖なる集まりには涙と喜びがあり、祈るにつれて、わたしたちは神様の愛と祈りに対する答えを目の当たりにしました。」

ジェニー (韓国)

「新しい力と強さを吹き込まれたように感じます。わたしはよく祈る人たちの一員となれて本当に祝福されています。神様はわたしの祈りのほとんどに答えくださり、未だ答えられていない祈りは神様の知恵と時にゆだねています。」

ロナルド (アメリカ)

「10日間の特別祈禱は、わたしたちの祈りの生活を変えました。」

イマ (ナイジェリア)

「10日間の特別祈禱はとても感動的で励ましに満ちたものでした。もっとも心おどる経験は、糖尿病の合併症で寝たきりになってしまい、話すこともできなかった引退牧師が電話をかけられるようになり、今では車椅子で生活できるようにまでなったことです。これはわたしたちの賛美の報告のはじまりに過ぎません。」

ターシャ (セントキッツ:ネイビス連邦)

「キリストと交わることが他のすべてより後回しで、祈りも形式的でした。この10日間は、わたしの救い主と語り、そしてその臨在を感じる事がどれほど平安で喜びに満ちたものであるかを気づかせてくれました。」

ドリス (アメリカ:ヴァージニア州)

「わたしたちが特別祈禱を始め今年で4年目になります。わたしたちは断食し、10日間祈りました。わたしたちは神様がわたしたちの生活の中で奇跡をなされるのを見ました。ある姉妹は20年もの間、外国に住んで音信不通になっている外国の親戚と連絡をとることができるよう祈りました。真剣な祈りをささげると、神様は連絡をとることが出来るようにしてくださいました。彼女と共に神様を賛美します！」

「10 日間の特別祈禱」について

■なぜ深い体験について取り上げるのか？

エレン・ホワイトは次のように書いています。
「キリストのために、奉仕の生涯を送っている者は、多くの人が想っているより、はるかに高く、深く、また広き経験を要します。すでに、神の大家族の一員となっている者でも、主の栄えを見、栄えに栄えいやまさりて、その同じかたちにかかわるとは、何を意味するかを知らない人が沢山あります。また多くの人、キリストの美しさのひらめきをわずかばかり認め、心に飛び立つばかりの喜びを抱き、なお十分に、なお深く、キリストの愛を知らん事を欲求します。かくの如き人は、神を求める心中の希望をますます厚くせねばなりません。」

(『福音伝言者』448 ページ)

わたしたちはイエスと共にある、より高く、深淵で、広大な経験を探求し、そしてこれがわたしたちの現実的な生活に当てはまるのかを見たいのです。

■日ごとの読み物

10 日間毎日、「日ごとの読み物」が用意されています。最初のページは聖句と、短く実用的な証しで始まります。2 ページ目からは、「祈りの時間の進め方の提案」と、具体的な祈りの課題、讃美歌、そして求めることができる「神様の約束」を記載しています。参加者が祈禱会中に目で追うことができるよう、読み物をコピーして配布することをおすすめします。

世界中の教会が、日ごとのテーマで祈ることによって、心を一つにすることができるのです。聖句およびあかしの書の引用、また、祈りの課題についての提案を用いて、特別祈禱に加わりましょう。ただし、祈りの課題すべてを急いで祈らなければ、と感じる必要はありません。何人かの小さなグループに分かれて、それぞれが割り当てられた祈りの課題を祈ることもできるでしょう。

祈りの課題のいくつかは特に、世界中のゼブンスデー・アドベンチスト教会についてのもです。わたしたちの教会家族について祈ることは大切なことです。ただし、グループ内に地域からの来訪者がいるならば、祈りの時間を調節して、いろいろな祈りの課題のためにこの時間

を用いても良いでしょう。どのようにすれば来訪者を最も良く歓迎でき、あなたのグループの一員だと感じることができると祈り求めましょう。

■祈禱会の進め方についての提案

各部分にどれだけの時間をかけるかについては、祈る度に違ってくると思います。

以下の時間割は、一般的にうまくいくとされている例です。

- ・ 歓迎、導入：2～5 分
- ・ 聖書およびあかしの書の朗読：3～5 分
- ・ 神を賛美する祈りの時間：10 分
- ・ 罪の告白と罪への勝利を求める祈りの時間：3～5 分
- ・ 嘆願と執り成しの祈りの時間：35 分
- ・ 感謝の祈りの時間：10 分

■7 人のために執り成しをしましょう

10 日間の特別祈禱においてそれぞれが祈るべき 7 人を示してくださるように神様に求めることを奨励しましょう。家族、友人、職場の同僚、教会員などが示されるかも知れません。その 7 人がキリストとつながることができるように聖霊が導いてくださることを祈り求めるように奨励しましょう。また、7 人の必要について、いかに祈るべきかを神様が示してくださるよう、そして、10 日の間に 7 人への働きかけをすることができるように祈りましょう。参加者が祈る 7 人の名前を記録することができるようにカードや紙を配るのも良いかもしれません。

本書 59 ページの記入用紙をご活用ください。

■2019 年「10 日間の特別祈禱」における安息日について

期間中 2 回、安息日がありますが、その両方において特別な祈りの課題を決めて祈り、応えられた祈りについての証しをしましょう。日々行われる祈りの集まりでなにが起きているかを、神の家族である教会員と分かち合う方法はたくさんあります。柔軟な発想をしましょう。

■最後の安息日(19日/土)について

最後の安息日は特に、10日間の特別祈禱を通して神様がくださったみ業を心から喜ぶときとして計画しましょう。応えられた祈りについての証し、祈りについての聖書の教えと説教、そして賛美の時間を十分に確保しましょう。それまでの日ごとの祈りの集まりに参加できなかった人たちも隣人のために祈ることの喜びを体験することができるように会衆を導きましょう。11日目の資料には、さらに多くのアイデアが記されています(本書44ページ)。

■2019年「10日間の特別祈禱」への フォローアップ: 全員参加伝道

2019年「10日間の特別祈禱」で神が始められたみ業を完成されるよう、また、神があなたの教会もしくはグループに望んでおられることが示されるよう、より熱心に祈りましょう。それは、毎週の祈禱会として継続することかも知れませんが、教会内もしくは地域における伝道

のために新しい働きを始めることを示されるかも知れません。心を開いて、神が導かれるままに従いましょう。主と共に歩むとき、わたしたちはたくさんの驚きを体験するでしょう。本書12ページからの「10日間の特別祈禱」伝道チャレンジに取り組むのも良いでしょう。

【あなたの証しをお送りください】

2019年「10日間の特別祈禱」を通して、神様がどのように働かれたかを、ぜひお知らせください! あなたの経験は他の参加者にとっての励ましとなります。

証しは、下記のメールアドレス、またはFAXにてお送りください。

pm@adventist.jp (教団信徒伝道部代表)
無料 FAX:0120-630-058

「特別祈禱」の指針

■祈りに同意する

神に願いをささげるとき、他の人が同じ願いをささげていれば心に留め、「同意」しましょう。これは力ある祈りです。もうすでに他の人がささげてしまった願いだから、同じことについて祈る必要はないとは考えないようにしましょう。

「また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。」(マタイ18:19)

祈りの中で元気づけられることは、いかに大きな励ましとなることでしょう!

■神の約束に基づいて祈る

祈りにおいて用いることのできるさまざまな主題と聖書の約束を載せた資料を準備しました。祈りの集まりで、神の約束に従って祈ることを奨励しましょう。

わたしたちの問題に目を向けることはたやすいことです。しかし、神の約束に基づいて祈るとき、わたしたちは自分の信仰を強めることができますし、神が働いてくださらなければすべ

ては不可能であるということを再認識することができます。神の約束は、わたしたちが自分の弱さや困難に目を向けることをやめ、キリストに目を向ける助けとなります。どんな弱さや困難であれ、それらに対する主の約束を聖書の中に見出すことができます。より多くの約束を探し、それを書き留めて、今後それらの約束に基づいて祈ることを奨励しましょう。

■断食(何かを断つ)

「10日間の特別祈禱」に参加する人たちに、テレビを見ない、世俗の音楽・映画・インターネットから離れる、甘い食べ物や消化に悪い食べ物を口にしない、など、何らかの形での断食をするようにすすめましょう。それによってできた時間を祈りと聖書の学びに用い、あなたと教会員とがキリストとしっかりつながることができるよう神に求めましょう。簡素な食事に慣れることにより、聖霊の声を受け入れることができるよう、心が整えられるのです。

■聖霊

一人の人のために、または特定の状況において、なにをどのように祈るべきかを教えていただけるよう聖霊に求めましょう。聖書には、わたしたちはどう祈るべきかを知らないが、聖霊がわたしたちのために執り成してくださると書かれています。

「わたしたちは、キリストの名によって祈るだけではなくて、聖霊に感じて祈らなければならない。『御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである』と言われているのは、そのことを説明している。このような祈りを神は喜んで聞いてくださるのである（ローマ 8：26）。熱心に力をこめて、キリストの名によって祈るならば、そのような熱心さをもって祈ること自体が、『求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えて』神がわたしたちの祈りに答えようとしておられることの神の保証なのである（エペソ 3：20）。」

（『キリストの実物教訓』126 ページ）

■物理的一体感

特別祈禱の時間を始める際には、全員が近くに集まるようにしましょう。それぞれが近づき、輪をつくることは、特別祈禱において非常に大切な一致の精神を高めるのに役立ちます。参加者が部屋のあちこちに散らばっていると、それぞれの祈りの言葉も聞こえにくくなるものです。

■記録を残す

「10 日間の特別祈禱」の記録を残すことは、日ごとの祈りの課題を自分のものとし、神に対する献身を確かなものとし、主の祝福に気づく上での有益な方法です。わたしたちの祈りを書き出し、神の応えを記録しておくことは、励ましを得る確かな方法です。

「10 日間の特別祈禱」の記録の残し方は、いくつか考えられるでしょう。個人的な祈りの記録に、祈りに対する神の応えを記録する時間を祈禱会中に設けることができます。もしくは、グループとして、祈りの中でささげた願いごととその応えを記録することもできます。ノートでも、模造紙でも、黒板やホワイトボードでも、あるいはデジタルメディアを用いても良いでしょう。単純な例としては、紙の中央部分に縦線

を引き、願いごとを左側に、それに対する答えを右側に書くことです。神がわたしたちの祈りにいかに応えてくださったかを振り返ることは喜びですし、信仰も強められます。

■畏敬の念

畏敬の態度を奨励し、それをモデル化しましょう。わたしたちは宇宙の王のみ座に近づこうとしているのです。祈りのときを、特に時間を気にすることもなく、単なる習慣として漫然と過ごすだけの時間にしないようにしましょう。しかし、祈るときには常にひざまずかなければならない、というわけではありません。教会員に素敵な1時間を過ごしてもらいたいと思うのであれば、神が導かれるままに、それぞれにとって無理のないところで、ひざまずいたり、座ったり、もしくは立ったまま祈ることをおすすめしましょう。

■簡潔な祈り

祈りは短く要点を得るべきです。それによって他の人たちにも祈る機会を与えるのです。祈りの言葉を 2、3 行の文章に留められるように挑戦してみましょう。それぞれが何回祈っても良いのです。短い文章の祈りは、祈りのときを飽きないものとさせ、聖霊の神がわたしたちにどのように祈ったら良いかを教えてくださることにつながります。簡潔な祈りを毎回「天の神様」や「み名によって祈ります、アーメン」などのフレーズをもって始めたり、終わったりする必要はありません。祈りは、神との会話だからです。

■静かな時間

リーダーとして、祈りの時間にとらわれすぎではいけません。心がけるべきことは、さまざまな人に祈ってもらうということです。神に語っていただくという静かな時間を過ごすことは素晴らしいことです。聖霊のお働きに委ね、全員に祈りの機会を提供しましょう。

■賛美

祈りの途中での自然発生的な賛美は、祈りの集まりに美しさを加えます。毎回、日ごとの読み物の後半部に、賛美歌を紹介しています。すべての賛美歌を用いる必要はありません。これ

は単なる提案だからです。賛美は、一つの祈りの項目から次の項目に移行するときにも用いることができます。

■祈りの課題について話し合わない

祈りの課題を祈祷会中に挙げてもらわないようにしましょう。その代わりに、各自がそれぞれの願いを祈るようにし、他の人たちがそれらの願いに同意したり、その願いを祈ったりするように奨励しましょう。その理由は時間です。祈りの課題について話し合うのには、最も時間を要します。サタンはわたしたちが問題について祈る代わりに、それについて話し合うことばかりに目を向けさせることを喜びとするのです。カウンセリングをしたり、問題解決の方法を提案したりする人もいるでしょう。しかし、力は神様から来るものです！ わたしたちが祈れば祈るほど、主の大きな力が与えられるのです。

■日ごとの時間

これは非常に大切です！ リーダーとしてあなたは日々、キリストのもとで時間を過ごし、主と語り、み言葉を読まなければなりません。もしあなたが神を知ることが人生における最優先事項とするなら、すばらしい経験への扉が開かれることでしょう。

「大宗教改革によって世界を揺り動かした力は、密室の祈りから出たものであった。そこにおいて、神聖な静けさのうちに、主のしもべたちは神の約束の岩の上にしっかりと立った。」

(『各時代の争闘』上巻、261 ページ)

【推奨する讃美歌について】

日ごとの読み物で提案している「推奨する讃美歌」にある『Songs of Hope - きぼうのせい』は、アドベンチスト・ブックセンターよりご注文いただけます。

まだお持ちでない教会は、この機会にぜひご注文ください。

注文先 store@fukuinsha.com
電話:0120-28-2910